

第377回
日本泌尿器科学会新潟地方会
《プログラム・抄録》

日時：平成28年3月19日（土）午後3時00分
会場：新潟医療人育成センター（医学部内）4階ホール
新潟市中央区旭町通り1番町757

次回 第378回新潟地方会（三大学合同地方会）予告
日時：平成28年6月11日（土）午後2時
会場：パストラル長岡
演題申込期限：平成28年5月13日（金）

- ※ すべてPCのみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7分。討論3分（時間厳守）

951-8510 新潟市中央区旭町通1の757
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784

15:00~15:50

座長 田崎 正行

1. 当科における経尿道的尿管ステント留置症例の臨床的検討

新潟県立新発田病院 泌尿器科

渡邊 和博、小松 集一、宮島 憲生、波田野 彰彦

【目的】当科で尿管ステントを留置した症例について検討した。【対象】2014年6月から2015年11月までに当科で尿管ステントを留置した95例。尿管結石などによる複雑性腎盂腎炎47例、悪性腫瘍による腎後性腎不全15例、その他(前処置、疼痛管理)33例であった。【結果】複雑性腎盂腎炎において、性別が女性、起因菌が大腸菌、年齢が75歳以上、基礎疾患にDMがある、Performance Status (PS)が3,4であることは敗血症性DIC合併のリスクファクターであった。

2. 当院での限局性前立腺癌に対する放射線外照射療法症例の検討

¹⁾ 長岡中央総合病院泌尿器科、²⁾ 新潟県立がんセンター新潟病院泌尿器科
山口峻介¹⁾、信下智広¹⁾、山崎裕幸²⁾、高橋英祐¹⁾、照沼正博¹⁾

当院にて過去10年間に施行された限局性前立腺癌に対し、放射線外照射療法施行例258例の治療成績につき、後ろ向きに検討した。年齢中央値71(49-80)歳、診断時PSA中央値11.4(1.2-2390)、Gleason Score(GS)≤6:50例、GS7:99例、GS≥8:109例、cTstageはT1c87例、T2a74例、T2b23例、T2c11例、T3a44例、T3b16例、T43例であった。照射量は平均70Gy、照射後の中央観察期間は46(3-120)か月であった。ADT併用は203例、外照射単独療法は55例であった。PSA再発は258例中54例(20.9%)に認め、8例が癌死した。当院での治療成績につき、若干の文献的考察を加え報告する。

3. 当科における胚細胞腫瘍の臨床的検討

長岡赤十字病院 泌尿器科

池田正博、鈴木一也、米山健志

2005年4月から2015年4月までの10年間に当科で加療した胚細胞腫瘍の48例を対象とした。年齢は4ヵ月~59歳(中央値37歳)。病理組織学的分類ではセミノーマ32例(Stage I 23例、Stage II 5例、Stage III 2例)、性腺外胚細胞腫瘍(EGCT)1例、非セミノーマ16例(Stage I 11例、Stage II 1例、Stage III 3例、EGCT 1例)であった。Stage Iに対する術後補助治療としてセミノーマでは7例(30.3%)が放射線療法、非セミノーマでは5例(45.4%)が化学療法を受け、残りはサーベイランスされていた。再発は2例に認めたが、癌死した症例はいなかった。

4. 新潟大学医歯学総合病院泌尿器科における2015年の手術統計

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野

山名一寿、田崎正行、丸山亮、笠原隆、中川由紀、原昇、小原健司、齋藤和英、富田善彦

当院での手術は増加傾向にあり、手術室での件数は昨年比61件増の483件であった。密封小線源療法は4件、高線量率組織内照射療法は41件、他金マーカー挿入(IMRT用)やLDRのpre-planning等は別枠で放射線治療科と共同で行っている。2014年よりDaVinciによるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術が導入され、技術の安定とともに件数が大幅に増えたこと、緊急手術の需要が高まり手術件数が増えたことが2015年の特徴であった。

5. 初回診断時に肉眼的腫瘍を認めない尿路上皮癌症例の検討

がんセンター新潟病院泌尿器科¹⁾、同病理部²⁾、木戸病院泌尿器科³⁾
小林和博¹⁾、山崎裕幸¹⁾、ビリーム・ウラジミル¹⁾、斎藤俊弘¹⁾、谷川俊貴¹⁾、川崎隆²⁾、北村康男³⁾

対象は初回診断時に肉眼的腫瘍を認めなかった、01～15年の尿路上皮癌82名。初回診断時、膀胱生検と57名(69.5%)に上部尿路細胞診、32名(39%)に尿道生検が行われた。初回診断は、膀胱癌51名(62.2%; Tis 49, T1 2)、膀胱・上部尿路癌19名(23.2%; Tis 18, T1 1)、上部尿路癌 Tis 12名(14.6%)。全症例中7名(8.5%)、膀胱・上部尿路癌では5名(26.3%)に前立腺部尿道 CIS を伴っていた。CIS 症例の BCG1 コース後の寛解率は70.7%(膀胱76.6%、上部尿路80%、膀胱・上部尿路50%)。BCG で寛解しなかった膀胱 CIS 11 名中2名は BCG 後に上部尿路 CIS が診断された。CIS が疑われる場合、初回診断時から上・下部尿路を精査したほうがよいと思われる。

15:50~16:40

座長 山名 一寿

6. 偽嚢胞ならびに Burn-out 様凝固壊死を伴った精巣セミノーマの1例

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院¹⁾泌尿器科、²⁾病理診断科、³⁾放射線診断科
星井 達彦¹⁾、長谷川 剛²⁾、池田 洋平³⁾、西山 勉¹⁾

症例は57歳男性。徐々に増大する無痛性の陰嚢腫大を主訴に2015年8月15日当科を初診。60×45mmで弾性硬の左精巣を触知。エコーでは内部均一な腫瘍を認め、CTでは、左精巣に造影効果のある薄い隔壁を伴った直径40mmの嚢胞性腫瘍を認めた。血液検査上 AFP、β-HCG は正常範囲内であった。嚢胞性左精巣腫瘍の診断で同年8月20日左精巣摘除術を施行。術後問題なく術翌日に退院した。術後から現在まで明らかな再発を認めていない。病理組織検査の結果は偽嚢胞ならびに Burn-out tumor 様凝固壊死を伴ったセミノーマであり、免疫組織染色では AFP、β-HCG とともに陰性であった。嚢胞性変化を伴った精巣セミノーマは稀であり、文献的考察を加えて報告する。

7. 新潟医療センターにおける緊急 TUL の適応と治療成績

新潟県厚生農業協同組合連合会 新潟医療センター 泌尿器科
木村元彦 志村尚宣

新潟医療センターでは(1)結石閉塞腎盂腎炎、(2)両側や単腎尿管結石による急性腎不全、(3)無尿ではないが両側尿管結石、(4)その他(激痛等)の場合に緊急 TUL を行っている。2012年から2015年までの4年間で行った TUL は計440件で、うち緊急(初診から2日以内に施行)は59件であった(うち両側同時 TUL は7名で14件)。男31例、女28例。緊急理由は(1)が30例、(2)が7例、(3)が11例、(4)が11例。結石部位は U1 が19例、U2 が7例、U3 が32例、中腎杯1例。結石長径の中央値は7mm。手術時間の中央値は46.5分、術後尿管ステントは53例に留置。手術1ヶ月後の完全排石は56例、再 TUL が3例。重大な術中合併症は認めず、術後1名に肺炎、1名に腎盂腎炎を来した。当院での緊急 TUL は症例を慎重に選ばば安全で手術成績も良好であった。

8. 病診連携により分子標的薬投与を行った腎癌症例の経験

会津クリニック¹⁾、竹田総合病院 泌尿器科²⁾
玉木信¹⁾ 松岡俊光²⁾ 中島拓²⁾、加藤義朋²⁾、細井隆之²⁾

会津地区でも中核病院における泌尿器科医師の確保が困難となりつつあるため、病診連携の活用により、手術や化学療法などの入院診療への注力が可能となる。会津クリニックにおいても、日帰り陰式前立腺生検術などを積極的に行うことで協力しているが、今回は、病診連携により分子標的薬(スニチニブおよびテムシロリムス)投与と副作用対応を行った腎癌症例を経験したので報告し、分子標的薬投与における病診連携のあり方を検討し、ご指導をいただきたい。

9. 経尿道的膀胱頸部切開術 TUI-BN 後も反復する尿閉が自己導尿指導により軽快した一例

柏崎総合医療センター 泌尿器科
羽入修吾、風間 明

初診時 59 歳、男性。X 年 12/4 中心性頸髄損傷にて椎弓切除術。X+1 年 1/5 尿閉にて当科初診、導尿 1300ml。神経因性膀胱の診断で投薬を開始したが飲酒尿閉を繰り返した（2 年間に 11 回）。X+2 年 11/27 カテーテル挿入困難にてマンドリンを使用して留置。膀胱頸部につかえ感があった。12/7TUI-BN 施行。しかし、12/14、12/19、12/29 にも飲酒尿閉を繰り返した。X+3 年 1 月初旬、間欠自己導尿を指導。その後、尿閉にならず CIC は休止中。

10. 新潟県の前立腺がん検診—平成 26 年度の結果報告—

新潟県前立腺がん検討委員会

小松原秀一、西山勉、片桐明善、羽入修吾、片山靖士、森下英夫、斉藤俊弘、波田野彰彦

市町村の保健事業である前立腺がん検診は県福祉保健部に報告され、現在平成 26 年度分までが新潟県ホームページで公表されている。平成 26 年度の結果は対象者（50 歳以上で主に国民健康保険受給者）200,886 名、受診者数 32,928 名（受診率 16.4%）、年齢階層別 PSA 基準値による要精検者数 2,361 名（要精検率 7.2%）精検受診者数 1,736 名（精検受診率 73.5%）、がん数発見数 144 名（受診者 10 万対 437.3）、早期がん割合（病期 B 以下）65.3%であった。主要各地域の年次推移についても報告する。

《休憩 16 : 40～16 : 45》

日本泌尿器科学会新潟地方会総会

16 : 45～16 : 55

[会場 新潟医療人育成センター4 階ホール]



Expert Seminar

謹啓 時下、先生には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、Expert Seminarを下記の通り開催致します。

ご多忙中誠に恐縮に存じますが、何卒ご出席賜ります様ご案内申し上げます。

謹白

日時：2016年 3月19日(土) 17:00より

場所：新潟医療人育成センター 4階 ホール

新しい時代の進行性前立腺癌の治療戦略

—骨マネージメントを含めた生命予後の延長とQOLの改善—

座長 新潟大学大学院 腎・泌尿器病態学・分子腫瘍学分野
教授 富田 善彦 先生

演者 京都大学大学院医学研究科 泌尿器科学
教授 小川 修 先生

主催
第一三共株式会社

※当日は、ご参加頂いた確認のため、ご施設名、ご芳名のご記載をお願い申し上げます。
なお、ご記載頂いた施設名、ご芳名は医薬品および医学・薬学に関する情報提供のために
利用させて頂く場合がございます。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

